



- ご挨拶 / 「支援者を支えること」 1
- 学会参加報告 / 第68回国立病院総合医学会 2-3
- 研修実施報告 / 平成26年度病院間副看護師長交流研修 4
- 研修実施報告 / 院内褥瘡対策研修会 5
- 病院行事 / 平成26年度病院文化祭を開催して 6-7
- 大会参加報告 / 第40回岩手県精神保健福祉大会への参画 8
- 医療安全取組報告 / 病院間医療安全相互チェックを実施 9
- 職場紹介 / 栄養管理室のご紹介 10
- 病棟行事 / わかば病棟クリスマス会を開催して 11
- 外来担当医表・研究発表会案内・編集後記 12

ポランのひろば

ご挨拶

「支援者を支えること」

病院長 八木 深

新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。新年にあたり年頭所感を述べさせていただきます。

さて、先般高齢化する家族が保護者となる負担を考え、精神保健福祉法が一部改正されました。精神障がい者ご本人が同意しなくても入院が必要となる場合、専門家の判断が必要なのは従前通りですが、保護者の同意ではなく家族等の同意が必要であると変更されました。しかし、果たしてこの『保護者』を『家族等』に言い換えれば、ご家族の負担が減るのでしょうか。ご家族に同意を求めず、専門家の判断を裁判所等の真に独立した第三者機関がチェックすれば、ご家族が、何故入院に同意したのだと本人から恨まれることもなく、同時に、障がい者が不当に自由を制限されることもチェックされます。

ここでの問題は、ご本人をどのようにして医療へ結び付けるかです。治療を望まないご本人をご家族が病院へ連れて行くべきだと言うのは酷です。英国では、入院依頼があると危機解決家庭治療チームが家庭に急行し、強力な訪問診療で支えます。鍵は2つ、入院を希望しないご本人は在宅治療に前向きになること、もうひとつは支援者を支援する視点です。支援者の支援は、支援者の休息、支援者への情報提供・アドバイスを骨子とし、支援者を非難せずに変化の希望を持つことが重要です。

こころ悩める人とその支援者は、声をあげない



ことが多くあります。こころの支援では、声にならない声を推測し、『何かお困りですか。』と尋ねながら、こころに寄り添い想像しながらともに前にゆくことが何より大切です。

ここ花巻病院では、精神科医も少なく、重症心身障がい児（者）や精神科の患者さんの合併症に対応する内科や小児科医師も不在で、支援者の支援をひろく求めています。東日本大震災は、支援者を責めないでという訴えや、無視しないでという叫びも記録しています。この繋がっているという感じは、何よりの支援です。今年も引き続き皆さまと繋がりを強固にしながら、花巻病院はともに前に進みたいと思います。

本年もどうぞよろしくお申しあげます。



- ご挨拶 / 「支援者を支えること」 1
- 学会参加報告 / 第68回国立病院総合医学会 2-3
- 研修実施報告 / 平成26年度病院間副看護師長交流研修 4
- 研修実施報告 / 院内褥瘡対策研修会 5
- 病院行事 / 平成26年度病院文化祭を開催して 6-7
- 大会参加報告 / 第40回岩手県精神保健福祉大会への参画 8
- 医療安全取組報告 / 病院間医療安全相互チェックを実施 9
- 職場紹介 / 栄養管理室のご紹介 10
- 病棟行事 / わかば病棟クリスマス会を開催して 11
- 外来担当医表・研究発表会案内・編集後記 12

ポランのひろば

ご挨拶

「支援者を支えること」

病院長 八木 深

新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。新年にあたり年頭所感を述べさせていただきます。

さて、先般高齢化する家族が保護者となる負担を考え、精神保健福祉法が一部改正されました。精神障がい者ご本人が同意しなくても入院が必要となる場合、専門家の判断が必要なのは従前通りですが、保護者の同意ではなく家族等の同意が必要であると変更されました。しかし、果たしてこの『保護者』を『家族等』に言い換えれば、ご家族の負担が減るのでしょうか。ご家族に同意を求めず、専門家の判断を裁判所等の真に独立した第三者機関がチェックすれば、ご家族が、何故入院に同意したのだと本人から恨まれることもなく、同時に、障がい者が不当に自由を制限されることもチェックされます。

ここでの問題は、ご本人をどのようにして医療へ結び付けるかです。治療を望まないご本人をご家族が病院へ連れて行くべきだと言うのは酷です。英国では、入院依頼があると危機解決家庭治療チームが家庭に急行し、強力な訪問診療で支えます。鍵は2つ、入院を希望しないご本人は在宅治療に前向きになること、もうひとつは支援者を支援する視点です。支援者の支援は、支援者の休息、支援者への情報提供・アドバイスを骨子とし、支援者を非難せずに変化の希望を持つことが重要です。

こころ悩める人とその支援者は、声をあげない



ことが多くあります。こころの支援では、声にならない声を推測し、『何かお困りですか。』と尋ねながら、こころに寄り添い想像しながらともに前にゆくことが何より大切です。

ここ花巻病院では、精神科医も少なく、重症心身障がい児（者）や精神科の患者さんの合併症に対応する内科や小児科医師も不在で、支援者の支援をひろく求めています。東日本大震災は、支援者を責めないでという訴えや、無視しないでという叫びも記録しています。この繋がっているという感じは、何よりの支援です。今年も引き続き皆さまと繋がりを強固にしながら、花巻病院はともに前に進みたいと思います。

本年もどうぞよろしくお申しあげます。



昨年11月14日(金)から15日(土)にパシフィコ横浜にて、第68回国立病院総合医学学会が開催されました。当院わかば病棟看護師からは自身を含め2演題のポスター発表があり、『患者との関わりの時間を増やすために ~衣類準備時間の削減に取り組んで~』と題したQC手法を用いて病棟内での業務改善を行った活動内容と、『暴力行為のある強度行動障害患者に行動療法を実践して』と題した看護研究の具体的取り組みについてポスター発表をしました。

初めての学会発表だったので、事前準備には相応の時間を要し、当日の発表は緊張感でドキドキしな

がらも何とか無事に終わることができました。自分たちのこれまでの活動内容や研究内容をより多くの聴講者へ聞いてもらいたい、還元したいという強い思いも相まって発表後は達成感でいっぱいになりました★

また、前述のQC手法による業務改善報告の発表については、なんとポスター賞(!)までいただき、更なる感激を味わうことができました(^_^)v 帰りには自分たちへのご褒美に熱々のおいしい小籠包を食べ、発表での満足感もさることながらお腹もいっぱいになった学会参加でした♪

昨年11月14日(金)、15日(土)に神奈川県横浜市で開催された第68回国立病院総合医学会に参加しました。『強度行動障害のある患者さんへの取り組み～活動終了の切り替えとして散歩を取り入れて～』と題し、療育活動後の“切り替え”に着目し、散歩を通してスムーズに自室誘導を促す取り組みについてのポスター発表を行いました。初めて総合医学会に参加させていただき、会場の雰囲気気圧されて大変緊張もしましたが、多くの方に自身の発表を傾聴して頂きとても貴重な経験となりました。

また、保育士の研究発表を中心に他病院における保育士の主体的取り組みについても学ぶことができ、興味深い演題ばかりで良い刺激ともなりました。今後もチーム医療の一員として多職種と連携を密にしながら患者さんの支援に努め、更には日頃の関わりを積み

重ねて新たな研究発表へと繋げていきたいと実感しました。

最後に、この研究にご協力頂きました患者ご家族ならびに関係職員の皆様に深く感謝申し上げます。
m(_)_m

さて、次回開催地は北海道札幌市とのことです。美味しい物も沢山★是非ともまた参加したいものですね～♪



昨年11月4日(火)・5日(水)の2日間に亘り、病院間副看護師長交流研修を北東北地区のNHO6施設から副看護師長8名の参加で実施しました。精神科専門病院は初めての経験とのこともあり、参加された方々は緊張した様子でしたが、当院の副看護師長らが管理的視点で細やかに関わったことで、その緊張はすぐに解けた様子でした。

特に多職種が一堂に介し、それぞれの専門的見解ないし立場で相互に意見を交わしている当院のカンファレンスには、熱く感じるものがあったようです。最後のグループワークでは、それぞれの参加者が『今回の経験を活かし自施設に戻って頑張るぞ!』という意気込みを強く実感しました。逆に当院の副看護師長らも他施設から多くの刺激をもらったようで、貴重な学びの場となりました。今後も花巻病院の看護の良さを発信し、相互理解を図ることのできる研修を企画していきたいと考えています。



昨年11月6日(木)に仙台医療センター皮膚・排泄ケア認定看護師の大向由克子先生を講師に招いて、「ポジショニングとスキンケア」をテーマに院内研修会を実施しました。

主な内容として、褥瘡対策における基本的な部分から、当院の特性に合わせた事例内容もあり、研修参加者からは『とても解りやすく聞きやすかった』と大変好評でした。

また、大向先生には講演前に各病棟のラウンドをして頂いたのですが、患者さんの褥瘡部位を見るだけでなく、日常生活の姿勢や体位等も詳細に観察・アセスメントした上での適切なアドバイスであり非常に勉強になりました。

私達も患者さんの生活背景等も含めた全体像を捉え、褥瘡発生の要因を多角的に捉えたケアを実践することの重要性が認識できました。研修後の

アンケート調査では、“演習も交えたより実践的な講演を聞きたい”“是非応用的な第2段の開催をお願いしたい”等の要望も多数あり、来年度はさらに一步踏み込んだ内容にしていきたいと思えます。



平成26年度 病院文化祭を開催して

昨今医療機関側から地域への広報、そのアプローチの手法は、各病院でも試行錯誤しながら様々なアイデアないし取り組みがなされています。花巻病院ではこの病院文化祭を開催し、対外的なPRのもと普段は縁遠い一般の方々にも気軽に病院に足を運んでいただくことで、従来の病院が持つ画一的な暗いイメージから明るいイメージへ、或いは(端的に言えば)新たな発見をしていただくには絶好の機会だと捉えています。今年度においても、準備段階から各担当グループ、そのセクション毎に関係職員が創意工夫を凝らし、多職種スタッフが介在する精神科専門病院ならではの新たな試みも着実に実践できました。さて、この『新たな取り組み』ですが、普段何気なく(悪く言えば惰性的に?)医療に携わっているスタッフも、それがチームともなれば厚みも生まれ、地域に効果的に還元できる取り組みが多々あります。傍観的にみればそれは非常に勿体ない事だと気付かされますが、それらを包括的に体験できる場面、もしくは外向けに表現できる場面の一つがこの病院文化祭の魅力だと思います。職員のみならず、運営にご協力・お力添えをいただいたステージ出演者や出店業者等の外部団体の方々には大変感謝しております。来年度は花巻病院色を更に濃くした内容を企画し、職員目線でも一般来場者目線でも『何か花巻病院ってイイよね〜☆』と少しでも感じてもらえたなら嬉しいです。

事務局リーダー

庶務係長 安藤 秀行



催し物グループリーダー

作業療法士 阿部 芳美



さて、威勢の良い太鼓音で始まった今年度の文化祭★中央みのり幼稚園、西公園保育園のかわいらしい園児による発表や、キッズダンスチーム、ピアノ教室のステージ披露、さらには口内鬼剣舞でも小学生の子ども達に出演していただき、溢れるパワーを沢山もらった一日でした。昨年度より引き続き出演いただいたダンスグループ“BEFEEMOSS”は、はるばる新潟からご来院いただき、軽快なパフォーマンスでステージ上で新記録(?)を樹立しためでたい日でもありました。後半は花巻中学校吹奏楽部、花巻ジュニアスイングオーケストラ、花巻リズムヤンガー、みずぶ、K.BOX.PROJECT など迫力満点の心躍る演奏を楽しませていただき、外は寒い日でしたが、会場となった体育館内は熱気でみなぎっていました!!!!

メイン会場以外にも、パッチワーク体験やリラクゼーションコーナー、アロマハンドマッサージ、栄養相談などの各ブースが大いに賑いをみせ、ご来場いただいた地域の皆様の笑顔を見ることが出来ました♪

今年度の文化祭は『贈ろう、地域へのメッセージ』をテーマに掲げ、全職員一丸となつての準備、当日の運営にあたりました。当日は、生憎の荒天にも関わらず多くの地域住民の方々にご来場頂き、普段は静かな院内にも笑い声が響き渡り、大変活気に満ち溢れた1日となりました。体育館にて開催された各種ステージ披露は音楽・ダンス・伝統舞踊などいずれも趣向を凝らした楽しいもので、来場された方々がいきいきとした表情でパフォーマンスを鑑賞されている姿が非常に印象に残りました。私は出店グループを担当しましたが、綿あめや水ヨーヨーの無料配布は例年同様に子供たちの長蛇の列ができるほどの盛況ぶりでした。また、そばやうどんの販売や外部団体によるクラムチャウダーの販売等も盛況でお昼をまわる頃には完売することができました。一方で、今年度は予想以上に出品ブースが大盛況で午前中に飲食物が完売となったブースも続出してしまい、喜ばしいことながらも予めの確な発注数を設定する難しさも同時に痛感しました(苦笑)。今年の経験を活かし、来年度も来場される方々に十分ご満足頂けるような内容をより熟慮して準備していければと考えております。最後に今回出店にご協力頂いたスタッフの皆さま、大変ありがとうございました。

出店グループリーダー

医事係長 相澤 和寿



展示グループリーダー

医療社会事業専門員
小山 しずか



展示グループでは、体育館内の装飾や中央廊下の作品展示を中心に行いました。メイン会場である体育館には、宮沢賢治をモチーフにした花紙によるダイナミックな飾り付けを行いました。中央廊下には昨年に引き続き、各部署から笑顔の写真を持ち寄って作成したウェルカムボードや、院内保育所(みつば保育園)園児より提供いただいた作品展示をしました。ウェルカムボードは昨年も好評だったため、今年度は新たに各部署で考案したキャッチフレーズを添えて飾り付けを行いました。また、園児作品は見る人を自然と笑顔にしてくれるようなかわいらしい作品ばかりで、文化祭をよりいっそう賑やかにしてくれました。さらに、今年は新たな試みとして、市内のるんびにい美術館と提携し、絵画作品数点をご提供いただきました。“境界をなくす”という意味が込められた数々のボーダーレスアート作品は、この病院文化祭を通して地域と病院との間の目には見えない隔たり、即ち境界をなくして融和していこうという強いメッセージが心に伝わったのではないかと思います。来年も様々な作品展示や装飾を通して病院文化祭を明るく彩ることができればと思います。最後に…ご協力いただいた院内外の関係スタッフの皆様、本当にありがとうございました。



昨年10月23日（金）に第40回岩手精神保健福祉大会が花巻市文化会館において『笑顔でつながろう、こころの架け橋』をテーマに開催されました。今年も花巻地区での開催とのことで、当院は岩手県中部圏域における精神科基幹病院として、本大会での主体的な運営に携わりました。

本大会の趣旨は、地域において精神疾患を持ちながらも病気と向き合い、上手に付き合っていく、即ち発症から社会復帰に向けた一連のプロセスにスポットをあてることで、その主体的活動を行っている（もしくは成功体験がある）当事者団体等のシンポジウムを通し、地域住民向けに精神保健福祉の更なる相互理解と普及推進・啓発することが主眼であり、当日は報道機関や地域の障がい者支援事業関係者等も含める

と、会場には県内外から650名を超える集客がありました。

大会の冒頭では、地域において永年に亘り精神保健福祉に顕著な功労があった個人や団体の表彰が執り行われ、また、別フロアでは『目で見る心の健康展』と題して、花巻市内の精神障がい者施設等の作品展示や販売ブースが設けられ、大変な賑わいを見せました。

一方で本大会内容は当院にとって、改めてその存在意義や地域での役割にも警鐘的に言及するものでもありました。単に医療に特化せず、病院として精神障がい者の更なる社会参加や社会復帰を促進し、精神疾患に対する理解とその支援を図れる体制の構築・発信に貢献できれば本望です。

10月から11月にかけて、岩手県内の国立病院機構4施設（盛岡病院、岩手病院、釜石病院、当院）が相互に医療安全管理体制の強化と相互補完を狙いに各病院へのチェックが実施されました。関係者のご協力もあり、有意義な相互チェックが出来たのではないかと考えています。

当院は盛岡病院にチェックをいただき、岩手病院をチェックさせていただく体制で実施されましたが、事実他施設を訪問すること、されることは思っていた以上に新鮮で、自施設の医療安全対策の振り返りや体制見直しの良い契機になりましたし、他施設の優れている点について学び還元することもできました。

また同時に、病院スタッフ間のコミュニケーションも深まったことで、情報共有の体制や管理体制の標準化を図る良い機会となったのではないかと考えています。

今後は、ご提言いただいた事項について早急な是正を図り、他施設と情報交換しながら更なる医療安全の質の向上に努めたいと考えています。



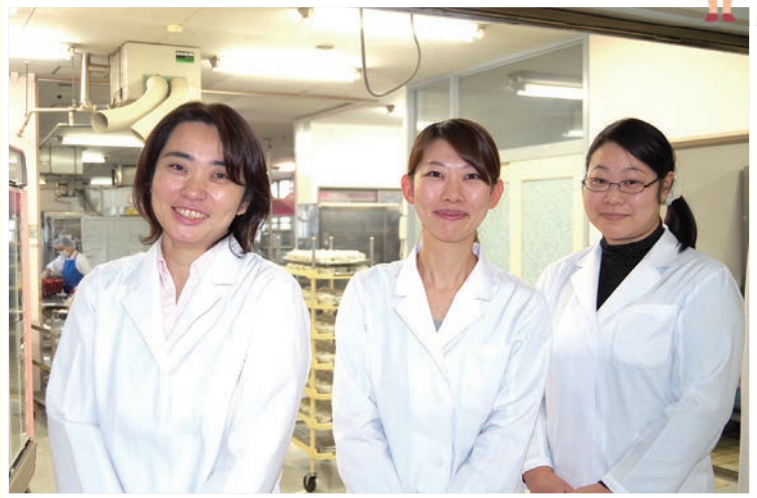


主任栄養士 富手 保果

当院の栄養管理室は、管理栄養士1名、栄養士1名、栄養事務1名、給食委託スタッフ16名の計19名で構成されております。病院給食は、年齢・性別・疾患等に応じそれぞれの患者さんの治療目的に沿った食事を提供しています。糖尿病や腎臓病などの疾患によって必要となる食事から、嚥下機能に応じ調理形態を考慮した食事など治療効果をより一層高めるための重要な役割を担っています。栄養素、食品の選択、材料費、温度管理、配膳時間など家庭の食事や外食にはない制限があることが多いです。その中で患者さんに少しでも季節を感じていただけるよう、旬の食材を使用し、季節ごとに行事食の実施など創意工夫に心がけています。

近年では、診療及び治療の基本となる栄養管理を強化するため、栄養管理計画による栄養スクリーニングならびに評価をもとに、食事療法・栄養食事指導を行っています。栄養食事指導においては、『面倒くさい』と思われがちですが、患者さんやご家族の生活スタイルに合ったわかりやすい栄養食事指導を心がけております。

今後も“食”で心身ともに健康になれるように病院給食や栄養食事指導を通じてサポートしていきたいと思っております。



行事食の一例です！



わかば病棟クリスマス会を開催して

わかば病棟看護師 菊地 めぐみ



昨年12月2日(火)に当院わかば病棟で一足早いクリスマス会を開催しました☆

当日は雪がしんと降り続く中でも、多くのご家族の皆さんに参加していただきました。クリスマスツリーやイルミネーションで飾られた会場内で、かわいいコスチュームの患者さんたちと病棟スタッフでご家族の皆さんをお出迎え♪クリスマスモードいっぱいの中、沢山の催しが行われました。

今、こども達を中心に人気沸騰中の妖怪ウォッチ『妖怪体操』でまずはフィーバー!!理学療法士と作業療法士たちは真っ白い顔の妖怪にコスプレし、キレッキレ(?)ダンスでみんなを笑いの渦へ... (笑) 更には養護学校の先生たちが変装した妖怪も、会を盛り上げる素晴らしいパフォーマンスを披露してくれました。そして、看護師と療養介助員たちによる懐かしい『セーラー服を脱がさないで♪』のダンスで絶好調♥

続いては保育士の演出による患者さん主演の『はらペコあおむし』ならぬ『はらペコサンタ』の演劇は、かわいらしい出で立ちも相まって大活躍してくれました。会のフィナーレではスタッフみんなで花巻音頭と合奏で終始盛況の中でおしまい(^o^)

患者さんたちはもちろん、みんなが笑顔で幸せ気分♪昨年にも増してHappyメリークリスマス!なイベントでした(^_^)v



診察室／曜日	月	火	水	木	金
第1診察室	第3・4週 長崎	第1・3週 支援医師	予約の方のみ診察	八木	有田
第2診察室	—	第1・3週 大島		—	—
第3診察室	櫻井	中嶋		櫻井	中嶋
第4診察室	渡邊	渡邊		斉藤	第3・5週 朝比奈
第5診察室	—	—		—	—

※外来受診は予約制となります。(毎週水曜日は休診)

※デイケア、作業療法は平常どおり行います。

※新患予約受付については地域連携室（内線697）までご連絡願います。

研究発表会 案内

平成26年度花巻フォーラムの開催案内について

例年当院主催で開催している花巻フォーラムを平成27年3月6日（金）13時から開催いたします。今年度は、前半は職員による研究発表（口頭発表、ポスター発表）を予定しており、後半は『WRAP（元気回復プログラム）』をテーマに、講師に増川ねてる氏を招いての特別講演を開催予定です。公開フォーラムですので、院外からの多数の参加をお待ちしております。



※写真は昨年度の開催風景です。

編集後記

明けましておめでとうございます。旧年中は当院にとって、公開講座（花巻フォーラム）開催や精神保健福祉大会への参画、文化祭での取り組みなど各分野において職種垣根を越えたチームとしての挑戦の年でした。『現状に満足せず、常に工夫を凝らし変化を求めること』を念頭に身を引き締めるとともに、今年も地域に開かれた病院を目指しチーム医療を推し進めていく所存であります。

（花巻病院広報委員・S）

花巻病院広報誌「ポランのひろば」 発行／独立行政法人国立病院機構花巻病院 〒025-0033 岩手県花巻市諏訪500

発行責任者／病院長 八木 深

TEL 0198-24-0511 FAX 0198-24-1721 <http://www.nho-hanamaki.jp/>



昨年11月14日(金)から15日(土)にパシフィコ横浜にて、第68回国立病院総合医学学会が開催されました。当院わかば病棟看護師からは自身を含め2演題のポスター発表があり、『患者との関わりの時間を増やすために ~衣類準備時間の削減に取り組んで~』と題したQC手法を用いて病棟内での業務改善を行った活動内容と、『暴力行為のある強度行動障害患者に行動療法を実践して』と題した看護研究の具体的取り組みについてポスター発表をしました。

初めての学会発表だったので、事前準備には相應の時間を要し、当日の発表は緊張感でドキドキしな

がらも何とか無事に終わることができました。自分たちのこれまでの活動内容や研究内容をより多くの聴講者へ聞いてもらいたい、還元したいという強い思いも相まって発表後は達成感でいっぱいになりました★

また、前述のQC手法による業務改善報告の発表については、なんとポスター賞(!)までいただき、更なる感激を味わうことができました(^_^)v 帰りには自分たちへのご褒美に熱々のおいしい小籠包を食べ、発表での満足感もさることながらお腹もいっぱいになった学会参加でした♪

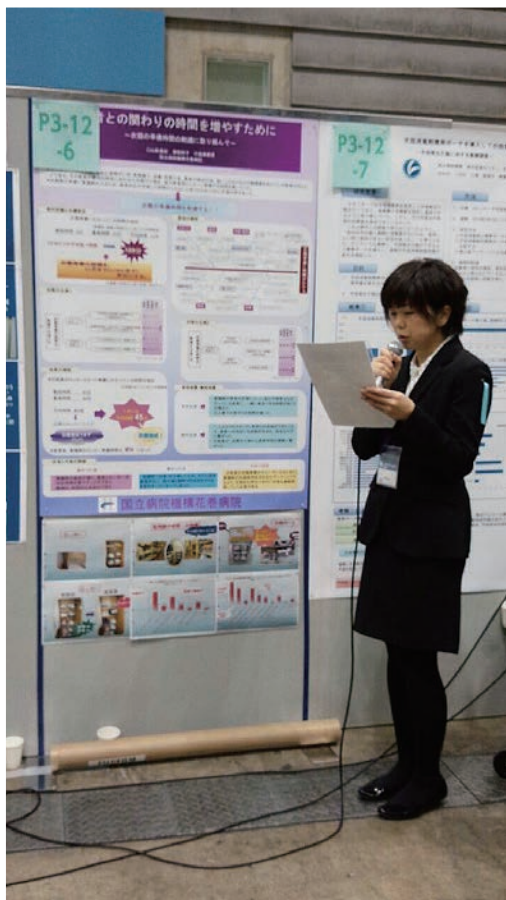
昨年11月14日(金)、15日(土)に神奈川県横浜市で開催された第68回国立病院総合医学会に参加しました。『強度行動障害のある患者さんへの取り組み～活動終了の切り替えとして散歩を取り入れて～』と題し、療育活動後の“切り替え”に着目し、散歩を通してスムーズに自室誘導を促す取り組みについてのポスター発表を行いました。初めて総合医学会に参加させていただき、会場の雰囲気気圧されて大変緊張しましたが、多くの方に自身の発表を傾聴して頂きとても貴重な経験となりました。

また、保育士の研究発表を中心に他病院における保育士の主体的取り組みについても学ぶことができ、興味深い演題ばかりで良い刺激ともなりました。今後もチーム医療の一員として多職種と連携を密にしながら患者さんの支援に努め、更には日頃の関わりを積み

重ねて新たな研究発表へと繋げていきたいと実感しました。

最後に、この研究にご協力頂きました患者ご家族ならびに関係職員の皆様に深く感謝申し上げます。
m(_)_m

さて、次回開催地は北海道札幌市とのことです。美味しい物も沢山★是非ともまた参加したいものですね～♪



昨年11月4日(火)・5日(水)の2日間に亘り、病院間副看護師長交流研修を北東北地区のNHO6施設から副看護師長8名の参加で実施しました。精神科専門病院は初めての経験とのこともあり、参加された方々は緊張した様子でしたが、当院の副看護師長らが管理的視点で細やかに関わったことで、その緊張はすぐに解けた様子でした。

特に多職種が一堂に介し、それぞれの専門的見解ないし立場で相互に意見を交わしている当院のカンファレンスには、熱く感じるものがあったようです。最後のグループワークでは、それぞれの参加者が『今回の経験を活かし自施設に戻って頑張るぞ!』という意気込みを強く実感しました。逆に当院の副看護師長らも他施設から多くの刺激をもらったようで、貴重な学びの場となりました。今後も花巻病院の看護の良さを発信し、相互理解を図ることのできる研修を企画していきたいと考えています。



昨年11月6日(木)に仙台医療センター皮膚・排泄ケア認定看護師の大向由克子先生を講師に招いて、「ポジショニングとスキンケア」をテーマに院内研修会を実施しました。

主な内容として、褥瘡対策における基本的な部分から、当院の特性に合わせた事例内容もあり、研修参加者からは『とても解りやすく聞きやすかった』と大変好評でした。

また、大向先生には講演前に各病棟のラウンドをして頂いたのですが、患者さんの褥瘡部位を見るだけでなく、日常生活の姿勢や体位等も詳細に観察・アセスメントした上での適切なアドバイスであり非常に勉強になりました。

私達も患者さんの生活背景等も含めた全体像を捉え、褥瘡発生の要因を多角的に捉えたケアを実践することの重要性が認識できました。研修後の

アンケート調査では、“演習も交えたより実践的な講演を聞きたい”“是非応用的な第2段の開催をお願いしたい”等の要望も多数あり、来年度はさらに一步踏み込んだ内容にしていきたいと思えます。



平成26年度 病院文化祭を開催して

昨今医療機関側から地域への広報、そのアプローチの手法は、各病院でも試行錯誤しながら様々なアイデアないし取り組みがなされています。花巻病院ではこの病院文化祭を開催し、対外的なPRのもと普段は縁遠い一般の方々にも気軽に病院に足を運んでいただくことで、従来の病院が持つ画一的な暗いイメージから明るいイメージへ、或いは(端的に言えば)新たな発見をしていただくには絶好の機会だと捉えています。今年度においても、準備段階から各担当グループ、そのセクション毎に関係職員が創意工夫を凝らし、多職種スタッフが介在する精神科専門病院ならではの新たな試みも着実に実践できました。さて、この『新たな取り組み』ですが、普段何気なく(悪く言えば惰性的に?)医療に携わっているスタッフも、それがチームともなれば厚みも生まれますし、地域に効果的に還元できる取り組みが多々あります。傍観的にみればそれは非常に勿体ない事だと気付かされますが、それらを包括的に体験できる場面、もしくは外向けに表現できる場面の一つがこの病院文化祭の魅力だと思います。職員のみならず、運営にご協力・お力添えをいただいたステージ出演者や出店業者等の外部団体の方々には大変感謝しております。来年度は花巻病院色を更に濃くした内容を企画し、職員目線でも一般来場者目線でも『何か花巻病院ってイイよね〜☆』と少しでも感じてもらえたなら嬉しいです。

事務局リーダー

庶務係長 安藤 秀行



催し物グループリーダー

作業療法士 阿部 芳美



さて、威勢の良い太鼓音で始まった今年度の文化祭★中央みのり幼稚園、西公園保育園のかわいらしい園児による発表や、キッズダンスチーム、ピアノ教室のステージ披露、さらには口内鬼剣舞でも小学生の子ども達に出演していただき、溢れるパワーを沢山もらった一日でした(^^) 昨年度より引き続き出演いただいたダンスグループ“BEFEEMOSS”は、はるばる新潟からご来院いただき、軽快なパフォーマンスでステージ上で新記録(?)を樹立しためでたい日でもありました。後半は花巻中学校吹奏楽部、花巻ジュニアスイングオーケストラ、花巻リズムヤンガー、みずぶ、K.BOX.PROJECT など迫力満点の心躍る演奏を楽ませていただき、外は寒い日でしたが、会場となった体育館内は熱気でみなぎっていました!!!!

メイン会場以外にも、パッチワーク体験やリラクゼーションコーナー、アロマハンドマッサージ、栄養相談などの各ブースが大いに賑いをみせ、ご来場いただいた地域の皆様の笑顔を見ることが出来ました♪

今年度の文化祭は『贈ろう、地域へのメッセージ』をテーマに掲げ、全職員一丸となつての準備、当日の運営にあたりました。当日は、生憎の荒天にも関わらず多くの地域住民の方々にご来場頂き、普段は静かな院内にも笑い声が響き渡り、大変活気に満ち溢れた1日となりました。体育館にて開催された各種ステージ披露は音楽・ダンス・伝統舞踊などいずれも趣向を凝らした楽しいもので、来場された方々がいきいきとした表情でパフォーマンスを鑑賞されている姿が非常に印象に残りました。私は出店グループを担当しましたが、綿あめや水ヨーヨーの無料配布は例年同様に子供たちの長蛇の列ができるほどの盛況ぶりでした。また、そばやうどんの販売や外部団体によるクラムチャウダーの販売等も盛況でお昼をまわる頃には完売することができました。一方で、今年度は予想以上に出品ブースが大盛況で午前中に飲食物が完売となったブースも続出してしまい、喜ばしいことながらも予めの確な発注数を設定する難しさも同時に痛感しました(苦笑)。今年の経験を活かし、来年度も来場される方々に十分ご満足頂けるような内容をより熟慮して準備していければと考えております。最後に今回出店にご協力頂いたスタッフの皆さま、大変ありがとうございました。

出店グループリーダー

医事係長 相澤 和寿



展示グループリーダー

医療社会事業専門員
小山 しずか



展示グループでは、体育館内の装飾や中央廊下の作品展示を中心に行いました。メイン会場である体育館には、宮沢賢治をモチーフにした花紙によるダイナミックな飾り付けを行いました。中央廊下には昨年に引き続き、各部署から笑顔の写真を持ち寄って作成したウェルカムボードや、院内保育所(みつば保育園)園児より提供いただいた作品展示をしました。ウェルカムボードは昨年も好評だったため、今年度は新たに各部署で考案したキャッチフレーズを添えて飾り付けを行いました。また、園児作品は見る人を自然と笑顔にしてくれるようなかわいらしい作品ばかりで、文化祭をよりいっそう賑やかにしてくれました。さらに、今年は新たな試みとして、市内のるんびにい美術館と提携し、絵画作品数点をご提供いただきました。“境界をなくす”という意味が込められた数々のボーダーレスアート作品は、この病院文化祭を通して地域と病院との間の目には見えない隔たり、即ち境界をなくして融和していこうという強いメッセージが心に伝わったのではないかと思います。来年も様々な作品展示や装飾を通して病院文化祭を明るく彩ることができればと思います。最後に…ご協力いただいた院内外の関係スタッフの皆様、本当にありがとうございました。



昨年10月23日（金）に第40回岩手精神保健福祉大会が花巻市文化会館において『笑顔でつながろう、こころの架け橋』をテーマに開催されました。今年花巻地区での開催とのことで、当院は岩手県中部圏域における精神科基幹病院として、本大会での主体的な運営に携わりました。

本大会の趣旨は、地域において精神疾患を持ちながらも病気と向き合い、上手に付き合っていく、即ち発症から社会復帰に向けた一連のプロセスにスポットをあてることで、その主体的活動を行っている（もしくは成功体験がある）当事者団体等のシンポジウムを通し、地域住民向けに精神保健福祉の更なる相互理解と普及推進・啓発することが主眼であり、当日は報道機関や地域の障がい者支援事業関係者等も含める

と、会場には県内外から650名を超える集客がありました。

大会の冒頭では、地域において永年に亘り精神保健福祉に顕著な功労があった個人や団体の表彰が執り行われ、また、別フロアでは『目で見るとこころの健康展』と題して、花巻市内の精神障がい者施設等の作品展示や販売ブースが設けられ、大変な賑わいを見せました。

一方で本大会内容は当院にとって、改めてその存在意義や地域での役割にも警鐘的に言及するものでもありました。単に医療に特化せず、病院として精神障がい者の更なる社会参加や社会復帰を促進し、精神疾患に対する理解とその支援を図れる体制の構築・発信に貢献できれば本望です。

10月から11月にかけて、岩手県内の国立病院機構4施設（盛岡病院、岩手病院、釜石病院、当院）が相互に医療安全管理体制の強化と相互補完を狙いに各病院へのチェックが実施されました。関係者のご協力もあり、有意義な相互チェックが出来たのではないかと考えています。

当院は盛岡病院にチェックをいただき、岩手病院をチェックさせていただく体制で実施されましたが、事実他施設を訪問すること、されることは思っていた以上に新鮮で、自施設の医療安全対策の振り返りや体制見直しの良い契機になりましたし、他施設の優れている点について学び還元することもできました。

また同時に、病院スタッフ間のコミュニケーションも深まったことで、情報共有の体制や管理体制の標準化を図る良い機会となったのではないかと考えています。

今後は、ご提言いただいた事項について早急な是正を図り、他施設と情報交換しながら更なる医療安全の質の向上に努めたいと考えています。



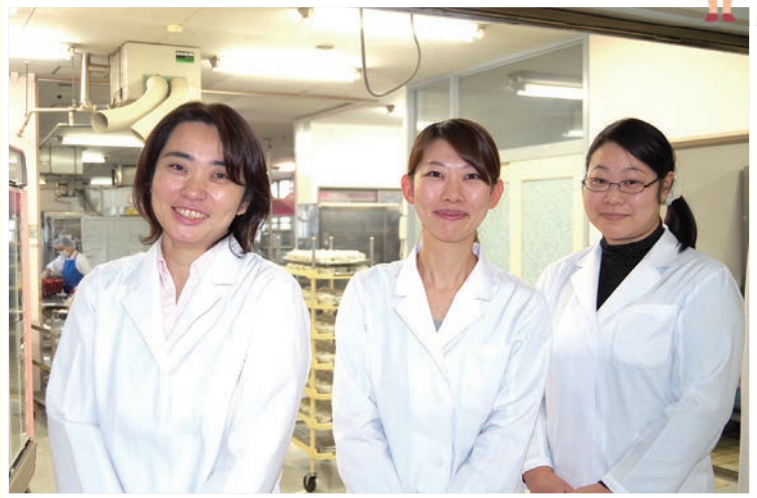


主任栄養士 富手 保果

当院の栄養管理室は、管理栄養士1名、栄養士1名、栄養事務1名、給食委託スタッフ16名の計19名で構成されております。病院給食は、年齢・性別・疾患等に応じそれぞれの患者さんの治療目的に沿った食事を提供しています。糖尿病や腎臓病などの疾患によって必要となる食事から、嚥下機能に応じ調理形態を考慮した食事など治療効果をより一層高めるための重要な役割を担っています。栄養素、食品の選択、材料費、温度管理、配膳時間など家庭の食事や外食にはない制限があることが多いです。その中で患者さんに少しでも季節を感じていただけるよう、旬の食材を使用し、季節ごとに行事食の実施など創意工夫に心がけています。

近年では、診療及び治療の基本となる栄養管理を強化するため、栄養管理計画による栄養スクリーニングならびに評価をもとに、食事療法・栄養食事指導を行っています。栄養食事指導においては、『面倒くさい』と思われがちですが、患者さんやご家族の生活スタイルに合ったわかりやすい栄養食事指導を心がけております。

今後も“食”で心身ともに健康になれるように病院給食や栄養食事指導を通じてサポートしていきたいと思っております。



行事食の一例です！



わかば病棟クリスマス会を開催して

わかば病棟看護師 菊地 めぐみ



昨年12月2日(火)に当院わかば病棟で一足早いクリスマス会を開催しました☆

当日は雪がしんと降り続く中でも、多くのご家族の皆さんに参加していただきました。クリスマスツリーやイルミネーションで飾られた会場内で、かわいいコスチュームの患者さんたちと病棟スタッフでご家族の皆さんをお出迎え♪クリスマスモードいっぱいの中、沢山の催しが行われました。

今、こども達を中心に人気沸騰中の妖怪ウォッチ『妖怪体操』でまずはフィーバー!!理学療法士と作業療法士たちは真っ白い顔の妖怪にコスプレし、キレッキレ(?)ダンスでみんなを笑いの渦へ...(笑) 更には養護学校の先生たちが変装した妖怪も、会を盛り上げる素晴らしいパフォーマンスを披露してくれました。そして、看護師と療養介助員たちによる懐かしい『セーラー服を脱がさないで♪』のダンスで絶好調♥

続いては保育士の演出による患者さん主演の『はらペコあおむし』ならぬ『はらペコサンタ』の演劇は、かわいらしい出で立ちも相まって大活躍してくれました。会のフィナーレではスタッフみんなで花巻音頭と合奏で終始盛況の中でおしまい(^o^)

患者さんたちはもちろん、みんなが笑顔で幸せ気分♪昨年にも増してHappyメリークリスマス!なイベントでした(^_^)v



診察室／曜日	月	火	水	木	金
第1診察室	第3・4週 長崎	第1・3週 支援医師	予約の方のみ診察	八木	有田
第2診察室	—	第1・3週 大島		—	—
第3診察室	櫻井	中嶋		櫻井	中嶋
第4診察室	渡邊	渡邊		斉藤	第3・5週 朝比奈
第5診察室	—	—		—	—

※外来受診は予約制となります。(毎週水曜日は休診)

※デイケア、作業療法は平常どおり行います。

※新患予約受付については地域連携室（内線697）までご連絡願います。

研究発表会 案内

平成26年度花巻フォーラムの開催案内について

例年当院主催で開催している花巻フォーラムを平成27年3月6日（金）13時から開催いたします。今年度は、前半は職員による研究発表（口頭発表、ポスター発表）を予定しており、後半は『WRAP（元気回復プログラム）』をテーマに、講師に増川ねてる氏を招いての特別講演を開催予定です。公開フォーラムですので、院外からの多数の参加をお待ちしております。



※写真は昨年度の開催風景です。

編集後記

明けましておめでとうございます。旧年中は当院にとって、公開講座（花巻フォーラム）開催や精神保健福祉大会への参画、文化祭での取り組みなど各分野において職種垣根を越えたチームとしての挑戦の年でした。『現状に満足せず、常に工夫を凝らし変化を求めること』を念頭に身を引き締めるとともに、今年も地域に開かれた病院を目指しチーム医療を推し進めていく所存であります。

（花巻病院広報委員・S）

花巻病院広報誌「ポランのひろば」 発行／独立行政法人国立病院機構花巻病院 〒025-0033 岩手県花巻市諏訪500

発行責任者／病院長 八木 深

TEL 0198-24-0511 FAX 0198-24-1721 <http://www.nho-hanamaki.jp/>